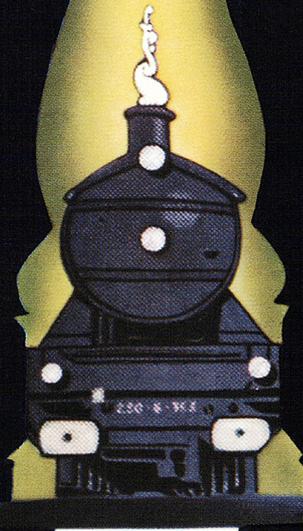


AGATHA CHRISTIE'S
"MURDER ON THE
ORIENT EXPRESS"



この中に犯人がいる？

エルキュール・ポワロ

アルバート・フィニー
卵型の頭に緑色の目、灰色の
脳細胞を働かせて
推理するベルギー人の名探偵

ハーバード夫人

ローレン・バコール
おしゃべりで頭の回転が速い
にぎやかなアメリカ女性

ビアンキ

マーティン・バルサム
ポワロの友人で鉄道会社の重役
名探偵に犯人探しを依頼する

グレタ・オルソン

イングリッド・バーグマン
控え目でおどろした物腰の
信心深いスウェーデンの女宣教師

アンドレニ伯爵夫人

ジャクリーヌ・ビセット
輝くような美貌にめくまれた
外交官夫人

ベドース

ジョン・ギールグッド
ラチェットの召使、軽蔑しながらも
忠実に仕える
イギリス人

アーバスノット大佐

ショーン・コネリー
インド駐在の陸軍士官で
デベナム嬢と恋仲らしい

ピエール・ポール・ミッシェル

ジャン・ピエール・カッセル
車内で数ヶ国語をあやつる
有能でよく気のつく車掌

ドラゴミロフ公爵夫人

ウェンディ・ヒラー
富豪のロシア貴族で一見
弱々しいが、その実
鋼鉄のような意志の持ち主

ヘクター・マックイーン

アンソニー・パーキンス
ラチェットの秘書、雇われたのは
給料のためと公言する
感受性の強いアメリカ青年

メアリー・デベナム

バネッサ・レッドグレイブ
学校の教師をしていた知的で
美しいイギリス女性

ヒルデガード・シュミット

レーチェル・ロバーツ
ドラゴミロフ公爵夫人の召使
気むずかしい夫人に対し
忠実に従順に仕えている

ラチェット

リチャード・ウイドマーク
億万長者のアメリカ人、ポワロに
護衛を頼むが断われ
車内で殺される唯一の被害者

アンドレニ伯爵

マイケル・ヨーク
ハンガリー貴族で外交官
美しい夫人とは
若々しい似合いのカップル

フォスカレッリ

デニス・クイリー
自動車のセールスマン、口達者で
人好きの良いイタリア系アメリカ人

ハードマン

コリン・ブレイクリー
ラチェットのボディガードと称している
派手な身なりのアメリカ人の探偵

**オリエン急行
殺人事件**

カラー作品

パラマウント映画/CIC配給

夜の闇の中を、トルコのイスタンブールから、パリ経由カレールへ向けて、走りつづける大陸横断列車オリエント急行。深夜、雪のため立往生した列車内でアメリカの億万長者が、刃物で身体中を刺されて殺された。その一等寝台車と他の客車を結ぶドアは、一晩中完全に錠がおろされており、外の雪には人の足跡は一切残されていなかった。犯人は同じ寝台車の国籍も身分も職業も異なる十三人の乗客の誰かにはがいない。ポワロ探偵は一人一人に会い、アリバイと動機を調べていった……。

この映画の原作「オリエント急行殺人事件」は、過去に何度も映画化が考えられたが、そのたびに原作者クリステイ女史の許可が得られず、今回四十年ぶりに映画化に成功した。

監督は「十一人の怒れる男」、「セルピコ」など多くの問題作を手がけた巨匠シドニー・ルメットで、珍らしく娯楽性に富んだ犯人探しのゲームを演出している。キャストも多彩な登場人物にふさわしく豪華で、米・英・仏など各国のそうそうたる大スターが、オリエント急行の乗客として顔を揃えている。

複雑な怪事件を、大胆で緻密な推理で解き明かしていく名探偵ポワロ。犯人探しと謎解きの面白さを十分に味わわせてくれる、本格的な推理映画である。(上映時間2時間8分)

■アガサ・クリステイのプロフィール

「ミステリーの女王」とたたえられるアガサ・クリステイ女史は、今日まで、実に八十編を超える長編推理小説を書き読み、世界各国に熱心な愛読者をもっている。

一八九一年イギリスに生れ、今年八十四歳になる。父はアメリカ人、母はイギリス人で幼少の頃父を亡くし、学校へも行かず母親の手ひとつで教育を受けた。極端に孤独で空想癖のあった女史は十六歳の時オペラ歌手を目ざしてパリの音楽学校に入学したが、すぐに退学し十九歳の頃から小説を書き始めた。処女作は「スタイルズ荘殺人事件」。この映画の原作となっている「オリエント急行殺人事件」は一九三四年に発表され、以来四十年間に日本だけでも二百万部以上を売りつづけた推理小説の名作である。他の代表作は「アクロイド殺人事件」、「青列車の謎」、「三幕の悲劇」など。女史の簡潔明瞭な文体は、常に独特なユーモアと透徹した批判に満ちている。

オリエント急行殺人事件

MURDER ON THE ORIENT EXPRESS

▶スタッフ◀
 製作……………ジョン・ブラボーン
 “……………リチャード・グッドウィン
 監督……………シドニー・ルメット
 脚色……………ポール・ティーン
 原作……………アガサ・クリステイ
 撮影……………ジェフリー・アンズワース
 音楽……………リチャード・ロドニー・ベネット



パラマウント映画
CIC配給

■原作 角川文庫／早川文庫

■物語

一九三〇年、ニューヨーク、ロングアイランドに住む大富豪アームストロング家の三歳になる一人娘が誘拐された。二十万ドルという巨額の身代金が犯人に支払われたにもかかわらず、幼児は死体となって発見された。悲報のショックで夫人は亡くなり、アームストロング自身も重なる不幸にピストル自殺を遂げてしまった。事件後六ヶ月目に犯人が逮捕されたが、莫大な金力とある種の秘密勢力を利用して、証拠不十分で釈放されるという結果に終わった……。

五年後、中近東イランの首都イスタンブール駅。今しも、アジアとヨーロッパを結ぶ豪華な国際列車オリエント急行が、さまざまな客を乗せてパリ経由カレールに向けて発車しようとしていた。ベルギー人の有名探偵エルキュール・ポワロも乗客の一人で、ロンドンへの帰途につくところであつた。真冬だというのに珍らしくオリエント急行の一等寝台車は満員で、偶然出会った古い友人の寝台車会社の重役ピアンキの取りはからいで、ポワロはようやくコンパートメントに到着することが出来た。やがて列車は発車前のあわただしさを残して動き出した。三日間の長い旅が始まった。

一日目の深夜、乗客たちは列車に揺られながら、それぞれの個室で深い眠りについていた。ユーゴのベルグラードを過ぎてバルカン半島の山間にさしかかった時、列車は突然スピードを落した。前夜から降り続いていた雪で線路が埋まり、列車は立往生してしまつた

のだ。ポワロは周囲の静寂にふと目を覚ました。その時、隣の個室で人が呻く声を聞いたような気がした。同時に車掌を呼ぶベルが鋭く廊下に響いた。足音が近づきドアを叩く音。誰かの声が答えた。「何でもないんだ。間違いだ。」静寂が戻りポワロは再び眠りにおちた。翌日、オリエント急行は雪の中に立往生したまま朝を迎えた。そしてポワロの隣のコンパートメントにいたアメリカ人の億万長者ラチエットが、刃物で身体中を刺されて死んでいるのが発見された。死体の傍におかれたへこんだ時計、パイプ掃除器、皿の頭文字を縫い取ったハンカチーフ、ちらつとかいま見られた真紅のナイトガウンなどが殺人の証拠物件としてあげられた。そしてコンパートメントに残されていた燃えカスの手紙から、ポワロはラチエットが実は五年前に起きたアームストロング誘拐事件の真犯人であることをつきとめた。一体この殺人事件とはどうつながるのか？

ポワロは国籍も身分も職業も異なる、同じ寝台車の十三人の乗客の一人一人に会って、アリバイと動機を調べていった。しかし全員のアリバイはすべて完璧だった。だが一等寝台車と他の客車を結ぶドアは一晩中、錠がおろされており、外の雪には人の足跡は何も残されていなかった。犯人は十三人の乗客の中にいるはずだ。そしてまだ列車の中に身を潜めている。

時間はあまりない。列車がユーゴの国境に到着するまでに、事件を解決しなければならぬのだ。犯人は一体誰なのか？ポワロの灰色の脳細胞がいそがしく活動し始めた……。

▶キャスト◀
 エルキュール・ポワロ……………アルバート・フィニー
 ハバード夫人……………ローレン・バコール
 ピアンキ……………マーティン・バルサム
 グレタ・オルソン……………イングリッド・バーグマン
 アンドレニ伯爵夫人……………ジャクリーヌ・ビセツト
 ピエール・ポール・ミッシェル……………ジャン・ピエール・カッセル
 アーバスノット大佐……………ジョン・コネリー
 ベドース……………ジョン・ギールガッド
 ドラゴミロフ公爵夫人……………ウエンディ・ヒラー
 ヘクター・マックイーン……………アンソニー・パーキンス
 メアリー・デベナム……………パネッサ・レッドグレーブ
 ヒルデガード・シュミット……………レイチェル・ロバーツ
 ラチエット……………リチャード・ウィドマーク
 アンドレニ伯爵……………マイケル・ヨーク
 ハードマン……………コリン・ブレイクリー
 フオスカレッリ……………デニス・クイリー
 コンスタンチン博士……………ジョージ・クールリス



次回ロードショー!

日比谷映画 (591) 5353